

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3372700553		
法人名	医療法人社団 宇根本会		
事業所名	グループホーム なごみ (西ユニット)		
所在地	岡山県浅口郡里庄町新庄2920		
自己評価作成日	平成 25 年 7 月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3372700553-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3372700553-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成 25 年 7 月 26日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者様が家庭的な雰囲気でご過ごせるよう、日常の中で出来ることを手伝って頂いたり、ご家族や近所の方からの 野菜の差し入れを頂いた時には、料理の下ごしらえをして頂いたり、日々の関わりの中で出来るだけ、自身の持てる力を引き出すように一人ひとりのペースを大事にご利用者様ごとに細かく気を配っています。季節を感じて頂けるよう、行事や食事は、催事の彩りを添えるよう、工夫しています。毎月の誕生日会や花見、敬老会には、家族の方を招待して一緒に食事を摂って頂いています。又、面会時には、日頃の様子をお話して、気軽にホームへ来て頂けるよう、支援しています。医療面においては、医師との連携が出来ており、24時間体制で対応、ご家族様にも安心して頂けるよう支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

この事業所を訪問すると恒例のグリーンカーテンや畑の野菜、プランターの花たちが出迎えてくれ、穏やかな時間の流れを感じ、ほっとする。フロアでは職員が利用者と輪になって話をしたり、歌や体を動かしたりしており、時折利用者の元気な笑い声が聞こえてくる。その楽しさに利用者が自然に集まってきている。母体が病院であり、医師と看護師がほぼ毎日事業所に訪問し、異変に対して早急な対応や必要な医療処置など行っている。利用者の情報を共有するために記録なども工夫されている。利用者の中には重度化が顕著な方もおられるが、医療面のフォローもあり、最期まで看ることが出来る体制が整っている。法人全体でリーダー会議や院内勉強会など定期的開催し、職員のスキルアップや各事業所の運営管理など事業所間の意識の共有化が図られている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果(西ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝8:45定時に事務所に掲げている「なごみ基本理念」を当日の勤務職員で斉唱することで1日の始まりとしています。この場で連絡事項や注意事項を伝えています。	毎朝両ユニットの職員が集まり、理念を斉唱した後、それぞれのユニットで申し送りを行っている。管理者はカンファレンス等で折に触れて、利用者に対して人生の先輩として敬う気持ちを持つことが一番と職員に伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の案内があれば、出来るだけ参加している。PTA主催の資源回収、秋祭り、パン祭り、里西小運動会などこちらから出向いたり、ホームでの月1回の誕生日会には、ボランティアの方が来られ、手品、フラダンス、大正琴など披露してくださっています。ご家族には事前に連絡して出来るだけ参加していただいています。	地域行事や小学校の運動会など出来るだけ参加している。夏祭りなど事業所の行事に地域の方や家族を呼び、一緒に楽しむこともある。ボランティアの来訪も多く、それぞれのグループが利用者と一緒に出来る事や楽しめる事を考え、披露してくれている。今年の4月からは新しく傾聴ボランティアの訪問が始まり、利用者も喜んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議において、行政担当者や民生委員、地域分館長など地域の人に認知症の方を取り巻く環境、それに対する支援についての内容などをお伝えし、ご理解いただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、議事録を作成し、意見や疑問点をそのままにせず、次回開催までに評価ならびに問題、解決に繋げ、報告できるように事業所内で話し合いを行い、サービスの向上に努めています。	3か月に1回程度、開催している。行事と一緒にやる事が多く、意見交換や事業報告の後、利用者と一緒にお寿司など昼食を摂って頂いている。家族の参加も多い。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域行政担当者と密接に連携を図り、情報の収集や指導を仰いでケアサービスに役立っている。又、地域運営推進会議にも参加していただき、利用者の日常生活の様子やニーズに対する取り組みなど伝え、アドバイスを頂いています。	運営推進会議にて情報交換を行ったり、不明な点は電話で確認をしている。キャリアアップ研修など研修開催が多く、その都度お知らせがあり、できるだけ参加するようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、利用者の言葉や気持ちに耳を傾け、常に利用者を見守っています。時折、落ち着かず、帰宅願望が激しい時には、ご家族に説明して一時的に一部施錠を行い、事故に繋がらないように措置をすることがあります。事故防止や危険回避のために夜間、臥床時、家族の了承を得て、ベッド柵、センサーマットを使用しています。	基本的に玄関施錠はしない等、身体拘束をしないケアに努めている。やむを得ない場合は家族に了承を得た上でセンサーマットなど使用しているが、定期的に必要なかどうかの検討を行い、記録している。また、言葉での虐待や身体拘束についても注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が基本理念を念頭に言葉の虐待、身体虐待、心理的虐待がないか、自由や個人の尊厳を守って、温かみのある関わりが出来るか振り返り、職員同士お互いのケアに注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がある場合は職員に説明、アドバイスを行いながら利用者の支援に結びつけています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制についても詳しく説明を行って、同意を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には、日頃の会話の中で、ご家族には、面会時や電話であったり、機会を捉え、スタッフ全員が気軽に問いかけ、何でも言ってもらえるように雰囲気作りを行っています。	遠方の家族もおり、電話などで状況を伝え、意向や希望を聞いている。また、誕生日会やお花見など案内状を送り、参加できる方には一緒に参加してもらっている。家族会などはしていないが、面会や行事などで一緒に過ごす時間を作り、お互いに話がしやすい関係作りを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの要望、意見を聞くよう心掛けているが、不満や苦情を把握しきれない可能性があるため、日頃からコミュニケーションを図るように努め、スタッフの意見やアイデアを取り入れるようにしている。	管理者が日頃から職員の気持ちや意見を聞き、協調して業務が行えるよう関係づくりに努めている。個人面談もあり、一人一人の意見を聞く機会を設けている。また、定期的に院内勉強会もあり、職員のスキルアップにも力を入れている。	現在、管理者が行っている業務が膨大であり、大きな責任を背負っていると感じた。管理者からは「自然にしている」という言葉があったが、人材育成の面からも、できれば各ユニットにリーダーを配置するなどし、管理者が行っている業務を振り分けてはどうだろうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場の就業環境を把握しており、スタッフ各自のやりがい、向上心をもって働けるよう職員の資格取得に向けて支援や健康管理を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を毎月第一水曜日に可能な範囲で参加している。又、外部研修にも希望があれば参加して内容をカンファレンスのときに発表しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、地域の交流会、研修会に参加してサービスの質の向上に役立てています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で現状の生活状態の把握に努め、不安な思い、いろいろな悩み、要望などに耳を傾け、その思いを受け止める。又、本人の不安を少しでも取り除き、安心してもらえるように声掛けに配慮しながら信頼関係が築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の生活状況を把握し、家族の思い、不安、疑問に思っていることを聞き出し、本人とそのご家族が望む支援が、どのようなものか、又、事業所として可能な支援、リスクについても説明し、話し合うなかで信頼関係が築けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に利用者のご家族の思いや、どのような支援を望んでいるのか、又、事業所として対応出来る事、出来ない事を良く話し合い、信頼関係を築きながら、本当に必要なサービスに繋げるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者が安心して穏やかな気持ちで過ごせるように、常に利用者の立場になって支援するように心がけています。人生の先輩として尊厳の念を忘れず、心に寄り添う気持ちを忘れないようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃の様子を伝え、本人とご家族がゆっくりと過ごせるように配慮しています。また、状態に変化があった時にももちろん、なかなか面会に来られないご家族には、電話連絡をしたり、関係が途切れないように留意しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、知人がいつでも面会に来られるような雰囲気づくりを常に心掛けています。可能な範囲で地域での行事に参加したり、美容院に出かけたりしています。	ご家族や知人の面会が多く、訪問しやすい雰囲気づくりを心掛けている。また、家族の協力も得ながら、行きつけの美容院へ行ったり、自宅へ帰り、夜に戻ってくるなどの外出もあり、馴染みの関係を継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、職員が間に立って話を取り持ったり、無理強いをしない範囲でレクリエーションに参加してもらい、利用者同士が交流を持てるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した利用者やご家族の方にも継続的な付き合いができるように、連絡、相談などがあった場合には、出来る範囲で対応しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で言葉や表情等から真意の把握に努めています。意思疎通が困難な方は、利用者本位での介護、介助に努めています。	日常会話の中で言葉だけではなく、利用者の表情や態度を見ながら、思いや意向を把握している。また、利用者の状況を家族に伝え、家族の要望を聞いている。事業所からの働きかけにより家族の認知症に対する理解も深まっており、何かあった時にはすぐに相談できる関係づくりに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、生活歴や家族、知人の情報、モニタリングシート等を参考にして個人の状況の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録、申し送り、ケアチェック表を参考にしつつ、職員間で情報交換し、出来る範囲で利用者の状態に合わせて介助するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族の思いや意見を聞き、出来る範囲で希望に添えるように努めています。又、アセスメントを含め、職員間で意見交換し、定期的カンファレンスを行っています。	家族の意見や他事業所からの意見や情報を聞き、カンファレンスにて職員で意見交換し、プランを作成している。担当者が3カ月毎に丁寧にモニタリングを行い、プランの継続を見直している。医療面に関して、主治医や看護師の意見も聞き、反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日中、夜間の食事、水分量、排泄、バイタル等、一覧できるチェック表があり、それを見れば職員全員が把握できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日会等の行事には、案内状を出し、ご家族の方にも参加して頂き、一緒に楽しめるように食事も提供している。又、急な外出等にも柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を定期的開いて、町行政担当者、包括支援センター、民生委員、地域分館町など参加され、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いています。月1回、傾聴ボランティアに来て頂いて、お楽しみ会や話し相手になって頂いています。又、年に1回の夏祭りには、地域の方にも参加して頂き、交流がもてるように工夫しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入所前からのかかりつけ医の医療を受けられるよう、本人、ご家族の希望、依頼により通院介助を行ったり、訪問診療に来て頂いています。又、主治医とは定時の連絡、急変時には、24時間対応の連携が出来ています。	母体である協力医療機関よりほぼ毎日医師が訪問し、利用者の様子を確認している。また、週2回の訪問看護や毎日18時に主治医に報告書をFAXで送付することで連携を図り、何かあればすぐに対応できる体制を整えている。協力医療機関以外の受診については家族の協力も得ながら希望に添って支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態観察に応じた支援を行えるようにしています。又、看護師などに利用者の情報を伝え、相談し、ケアに関するアドバイスなどをもらうようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように、又、早期に退院できるよう情報交換をしています。入院中には、不安や混乱がないよう、事業所の職員が見舞うようにし、ご家族にも回復状況など情報交換しながら速やかに退院支援に結びつけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の容態悪化時には、早期に医療機関とご家族との話し合いが出来るように支援しています。ご家族とも回復状況など情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけています。	入居時に重度化した場合について説明し、同意書を記入して頂く場合もある。状態悪化時には医師から直接、家族に説明し意向を確認している。変化があるときには主治医がすぐに来てくれるなど最期まで看取ることができる体制が整えられている。また、職員も事業所の方針を理解し、協力しながら看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変や事故発生に備え、定期的に地域の消防署の協力を得て、救急手当や蘇生法を受講しています。夜勤帯の緊急対応については、マニュアルを作成し、実際の場面に活かせるようにしています。まず、利用者の状態を把握、安全確保し、バイタルチェック、異変があれば、すぐに主治医に連絡するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設設備の点検は、三宅消火器にお願いし、消防署の定期査察においても不備がないかチェックしてもらい、日頃から防災に心がけています。消防署立ち合いのもと、年2回、避難訓練を行っています。	年2回、三宅消火器や消防署の協力を得、避難訓練を行っている。訓練時には利用者も外に出るまで避難誘導を行っている。地震や水害への対策は検討中である。	緊急連絡網について、一度シュミレーションを行い、緊急時にきちんと伝わるかどうか確認をしてみたいかができるか。また、災害対策の一環として備蓄食糧や水について検討して頂くことを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、援助が必要な時まず、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを心がけています。	管理者より職員に対し、言葉かけなど随時指導している。利用者本人と良好な関係が築けるように職員自身が注意しながら声をかけるようになってきている。興奮や不穏が強いときには、居室へ行き、1対1で対応するなど本人が安心できる支援を心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい利用者に対しての身体介護を行うときには、それぞれの思いがあるので「これから〇〇します。よろしいですか。」など、しっかり声かけをして、その方の表情や意思を聞いたり、確認の上で支援しています。些細なことでも本人が決める場面を作っています。(飲みたいもの、食べたい物、する、しないなど。)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや体調に合わせた離臥床や食事の時間、食べやすい為もの形状に工夫したり、入浴も気が進まないときには、少し時間をおいて声かけしたり、日を改めて入ってもらったり、体調にあわせた対応をしています。行事などの段取りは職員の意向が優先しやすい面もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的には本人の意向で決めており、職員は見守りや支援が必要な時には、手伝うようにしています。自己決定が出来にくい利用者の洋服選びなどは、スタッフが決めてしまいがちな場面も少なくないが声掛けをしながら本人の気持ちにそった支援を行っています。本人の馴染みの理美容院で希望に合わせたカットやパーマをかけてもらえるよう連携しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の状態に合わせて食べやすいようにメニュー、形態を工夫し、体調に合わせた量にして摂ってもらっています。又、職員も利用者と共に囲み、行事の時には、家族の方も一緒に頂き、和やかな雰囲気大切にしています。	献立や食材は業者委託しているが、さとちゃん農園や事業所前の畑で採れた野菜、家族からの差し入れなど活用し、アレンジをしている。利用者にも食材の下ごしらえやお盆拭きなどできる所は手伝ってもらっている。お好み焼きやお寿司、おはぎなど利用者の好きなメニューと一緒に作ることもある。また、誕生日会など行事の時には家族も招待し、一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の健康状態を常に把握して水分摂取量、栄養、食事量が偏らないように注意をしています。飲みこみの悪い利用者には補助食品や嗜好品で補ってもらっています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方には、声かけ、夜見守りをし、出来ない方には、出来ないところを支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、さりげない声掛けや誘導でトイレでの排泄が出来るよう、支援しています。パンツ、パット類も利用者に適したものや使い心地の良いものを使用するようにしています。	自立の方、一部介助の方、常時オシメ着用の方など利用者の状況に合わせて支援を行っている。日中はできるだけトイレで排泄できるよう声かけ、誘導に努めている。また、緩下剤服薬や水分補給、運動など組み合わせ、スムーズな排便ができるようその人に合った支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄パターンをチェック表を見ながら把握し、水分摂取を促し、頑固な便秘ならば、状態に合わせて主治医に処方して頂いて下剤を服用、排便できるように支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めずに入居者のその日の体調や希望を確認し、入浴して頂いています。入浴拒否の人には、朝入浴にしたり、翌日にしたりするなど工夫しています。入浴できない人には、清拭、足浴などで対応しています。	入浴の好きな人、嫌いな人、一人一人に合わせた支援を行っている。基本的に週2~3回、入浴して頂くが、無理強いせず本人の気持ちを第一に考えている。重度化や体調不良により入浴出来ない場合、足浴や体清拭など行い、清潔を保持している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーションなど、日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めています。又、その人のペースで昼寝をしたり、夜寝つけないときには、話し相手になるなど配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の処方、効能、副作用の説明を個々の薬配ケースに貼付、スタッフが常に把握できるようにしています。処方の変更があった場合には、連絡ノートに記載し、職員全員が確認できるようにし、服薬時には本人に手渡し、きちんと服用できているか確認しています。自力で服用出来ない利用者には、服薬支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションに参加して頂き、体操をしたり、歌を唄ったり、言葉遊びやゲームなどで楽しんで頂いています。又、一人一人の力を発揮してもらえよう、おしぼりや洗濯物たたみ等お願いできそうな事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により外出先は異なりますが、ご家族の意向で墓参り、法事、食事に行かれる事もあるので続けられるよう、お願いしています。天気の良い日には職員がその人の体調に合わせて散歩やドライブ、買い物に誘い、気分転換を図っています。家族の協力もあり、季節の行事の花見、又、神社や道の駅に出かけたりしています。天気の良い日には、庭先で歌を唄ったり、散歩をしたり、外気浴が出来るよう、努めています。	気候の良い時には事業所前のベンチで外気浴をしたり、近隣を散歩することもある。また、買い物やドライブなどにも一緒に出かけている。季節の行事としてお花見や道の駅などの外出も企画している。家族と一緒に墓参りや外食に出かけたり、自宅に帰り過したりする方もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力を得て、少額のお金を持っている人もおり、理美容院、食事、買い物へ行ったときには、財布から出して支払いをされますが、自分で管理できない人が多く、ご家族からお金を預かり、事務所で管理している人でも外出時には、欲しいものを買うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ電話したり、手紙を出したいと希望された時には、やり取りが出来るよう支援しています。ご家族の方の声を聴くと安心されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど共同生活空間が分かりやすいようにドアに目印を表示したり、転倒防止の為に照明の確保に努め、室温、湿度に配慮して快適な空間作りを心がけています。リビングはゆったりした広さがあり、壁には行事写真や季節の飾りを工夫しています。ホームの庭には緑のカーテンや花が咲き、野菜作りもしており、利用者の方も収穫でき、野菜の下ごしらえしながら、して頂いています。	玄関やリビングなど全体的にゆったりと広く、窓からの採光もあり、明るい。テーブルのスペースや皆で集まって体操をしたりするスペースなど余裕がある。夏には恒例となっているグリーンカーテンを植えており、やわらかい日差しが入るようにしている。また、リビングにも観葉植物など緑が多く、心地よい。室温、湿度調整も適宜行い、利用者が快適に過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブルや椅子、ソファを配置し、自由にくつろげるようになっている。食事時には自分の席が用意してあるので落ち着いて食事ができ、テレビもゆっくり見たいときには、ソファに腰かけて見られ、お茶の時間やレクリエーションは好きな場所で楽しめるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室の入り口に表札を掲げ、ご自分の部屋を確認できるよう、目印にしています。出窓には鉢植えの花や観葉植物がおり、壁には、写真や手作りの壁掛けが掛けてあります。ベッドやタンスは利用者の希望や要望に合わせて使いやすい配置にしています。	居室は広く、出窓には家族が持ってきた鉢植えなどが飾られており、温かい雰囲気がある。居室に洗面台が設置され、お湯もできるようになっている。そのため、朝の洗面や食後の口腔ケアなどそれぞれの居室ですることができる。また、居室前に表札を掲げており、避難誘導の際、室内にいるか、いないかを確認できるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、手すりの増設、玄関のスロープ化を実施しています。ホーム内も安全に移動できるような、ゆったりした見通しのよいスペースになっており、車椅子でも自力で移動が安全にでき、職員も見守りしやすい間取りになっているが、障害物がないように配慮しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700553		
法人名	医療法人社団 宇根本会		
事業所名	グループホーム なごみ (東ユニット)		
所在地	岡山県浅口郡里庄町新庄2920		
自己評価作成日	平成 25 年	7 月	10 日
評価結果市町村受理日			

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=3372700553-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=3372700553-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日			

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(東ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝8:45定時になごみ事務所にて、「なごみ基本理念」を職員で斉唱することで1日の始まりとし、その場で管理者から連絡や注意事項を伝えています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の案内があれば、出来るだけ参加させて頂いている。PTA主催の資源回収、秋祭り、パ友愛セール、里庄西小学校運動会などに出向いたり、ホームでは、お誕生日会、お楽しみ会などにボランティアの方が見えられ、お話しや大正琴などを披露してくださっています。ご家族にもできるだけ参加して頂くために、事前連絡をしています。又、散歩時には近隣の方や子供さんたちと挨拶や会話を交わすなどの交流もあり、利用者の方にも笑顔が見られます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議において、行政担当者や民生委員、公民館など地域の人に認知症の方を取り巻く環境、それに対する支援についての内容などをお伝えし、ご理解を深めて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、議事録を作成し、意見や疑問点を掘り下げ、次回開催までに評価及び問題解決に繋げ、報告できるように職員で話し合いを進め、サービスの向上により努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域行政担当者との連携を密にし、情報の収集や指導を仰いで、ケアサービスの向上に役立っている。研修の機会を活かし、認知症対策や感染予防対策などに対し、今後の取り組み方など伝えると共にご協力頂いています。尚、介護認定更新時には、利用者の日常生活の様子やニーズに対する取り組み等を伝え、アドバイスを受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者の言葉や気持ちに心を配り、常に見守っているが、利用者の方が時折落ち着かず、脱出願望がある場合、ご家族に説明の上、一時的にリビングの出入り口などを施錠し事故の発生を未然に防ぐ措置を行うことがあります。又、夜間ベッドから降りようとされたり、危険な動きが見られる場合も、ご家族に説明、承諾を得た上で、ベッド柵を使用する場合があります。安全、安心を第一に利用者の話を聞き、不穩の原因を探り、時にはご家族にご協力を頂き、利用者の希望を叶え、不安を取りのぞくようなケースもあります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体が基本理念を念頭に言葉の虐待、身体的虐待、心理的虐待がないか、個人の尊厳や自由について考え、温かみのある関わりができています。職員同士お互いのケアに注意を払い、虐待防止に努めています。利用者への対応で職員自身にストレス、疲労感が溜まる事もあるので、管理者は職員の健康管理に留意し、日常的に共感、或いは解決の手段をアドバイスし利用者への適切な支援が行えるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように努めています。	職員が学ぶきっかけは設けられていませんが、成年後見が必要なケースがあるときは、管理者などへの連携が出来るようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前より、ご家族とコミュニケーションを円滑にできるよう、雰囲気作りを心がけ、不安、悩み等を聞き、十分に理解、納得をして頂けるようにしています。起こりうるリスク、重度化、看取り等についても説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が気軽に意見や要望を、直接、管理者及びスタッフに伝えられるように、普段からの関係作りをすると共に意見箱を玄関ホールに設置しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見、提案を受けられるよう、話し合い環境作りを心がけています。管理者から代表者はの伝達も密に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績をできるだけ給与面などで評価し、やりがいや向上心を持てるように努力しているが、規定範囲、バランス面での限界もあり、十分とはいえません。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得へのバックアップ、勉強会への誘い、研修会などへの参加はもちろんのこと、職員の自発的な向上心を引き出させるよう助言、協力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、研修会などで他施設職員と情報交換をして、職場で活かせることがあれば検討し、実施しています。又、各自、同業者との交流の重要性を感じています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で本人の思いや不安、生活状態を把握するように努め、本人の求めていることや不安を理解した上で、安心してケアを受けられるよう信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、要望や不安なこと、疑問に思っていることを丁寧に聞き取り、事業所としてどのような対応ができるか、じっくり話し合い、より良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人や家族の思い、困っていることなどに、耳を傾け、対応出来るか出来ないかなど、相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら、必要なサービスに繋げるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に人生の先輩であるという、なごみ基本理念に基づき、教えてもらう場面が多く持てるよう、工夫を心がけ、又、本人の思いや苦しみ、不安、喜びなどを知り、支え合える関係作りを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に日頃の状態、日々の出来事を細かく伝え、時に電話連絡することで家族と情報を共有し、共に本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの個々の生活習慣を尊重し、馴染みの理髪店へ出かけたり、家族と墓参りに出かけられるように支援しています。又、知人、友人、親戚等の訪問もあるので、続けて交流が持てるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係がうまくいくように毎日のお茶や食事の際は出来るだけ、一緒に過ごし、少しでも会話が持てるように職員が調整役となり、支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されてからも時折、来所されたり、又、職員が外でお会いした際も気軽に声をかけて下さいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通ができる方にはしっかり話を傾聴し、笑顔で喜んで頂けるように、又、困難な方には、介護する側の都合ではなく、利用者のさりげない行動や会話から思いや意向を汲み取るようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族からの情報を得て、より良いケアに繋がるよう、プライバシーに配慮しながら行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、1人1人の体調管理、状態を記録に残し、朝、夕の申し送り、連絡帳を活用し、職員同士で情報交換し、出来る範囲で利用者の状態に合わせて介助するようにしています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人別のケアチェック表を活用し、記録に残してそれを基に意見交換、カンファレンスを行い、援助に繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき、実施していますが記録を活かしきれず、実践に繋がらない事もあります。新たな課題が出来た時には、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のご家族が安心して暮らしていくための必要なサービスを臨機応変に提供し、誕生日会等の行事には、案内状を出し、ご家族の方にも参加して頂き、一緒に食事をしてもらえるよう支援しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を維持していくために、ボランティアの方の情報を得て、ご協力頂いている。又、レクリエーション用品の貸し出しなど、地域にある資源を利用させてもらったり、相談に乗ってもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入所前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族の依頼により通院介助を行ったり、訪問診療に来てもらうなど、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。主治医とは定時の連絡、急変時には、24時間の対応の体制が整っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態観察に応じた支援を行えるようにしています。些細な変化や気づきにも丁寧な対応で利用者や介護職員の良き相談相手となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように、又、早期に退院できるよう情報交換している。入院中には、不安や混乱がないように職員が見舞うようにしています。ご家族とも回復状況など情報交換しながら速やかに退院支援に結びつけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の容態悪化時には、早期に医療機関とご家族との話し合いが出来るように連携し、予後について利用者のご家族に理解を得て頂き、終末期に向けての方針など、利用者のご家族にとってどうあったら良いのか、ご家族の心の変化に配慮しながら利用者が穏やかな最期を迎えられるよう支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は急変や事故発生に備え、地域の消防署の協力を得て、応急手当や蘇生法を受講している。夜勤帯の緊急時対応についてマニュアルを作成し、皆で周知し実際の場面で活かせるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設設備の点検は、三宅消火器に定期的に依頼し、消防署の定期査察において不備がないかチェックしてもらい、日頃から防災を心がけている。マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練を実施している。地域の協力体制についても地域運営推進会議で協力を呼び掛けています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の生活観の違いもあり、気持ちを考えながら、言葉かけをする時にもさりげないケアを心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方にも表情を読み取ったり、身体介護を行うとき、「これから〇〇します。いいですか？」など確認した上で支援の際はご本人の意向を確かめる働きかけをし、自己決定して頂けるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせた離臥床、食事時間の配慮、1人ひとりにあったよう食べやすく工夫したり、入浴時も利用者の気分が乗らないときは時間をおいたり、次の日にしたり、それぞれ体調にあわせて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示される方にはご希望の服を着ていただいている。関心がない方には、職員が服を選んで「これにしましょうか？」と声掛けし、ごほんにんが答えやすく選びやすいような働きかけをしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意向や体調にあわせた量にし、メニューなど食材業者とともに協力しています。食事の際は、職員、利用者ともにテーブルを囲み、利用者の食欲などを観察し、和やかな雰囲気大切にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日バランスよく食事、水分を摂って頂けるよう支援し、排泄回数や体調への影響を細かく観察し、毎月体重測定し、1人ひとりの状態を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は声かけ、見守りをしている。歯のない方は、ハミングットを使用し、口腔内の清潔保持しています。又、医師の指示があるときには、歯科医院へ往診を依頼しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握し、なるべくトイレでの排泄を促し、誘導しています。尿意、便意のない方も定時、間隔を見計らって、無理のない排泄を支援、清潔保持に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の様子を個々に記入し、飲食物の工夫も行っています。処方して頂いている排便促進剤も調整し、スムーズな排便が出来るようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴、好きな方、嫌いな方、それぞれに工夫して声かけから始まり、個々に合わせて支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜等の睡眠状態やその時の体調に合わせて、日中でも、自室での臥床や休息、ご本人の希望など取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬には、特に注意を払い、常時服用の際、名前、再確認、間違えないように支援、体調、状態に応じて医師、看護師に報告、指示を仰いでいます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみを見出しつつ、皆様と一緒に毎日レクリエーション、体操、気分転換等、充実し笑顔が出るように全員に関わり、時には、一対一で支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって外出の機会を作っている。ご家族の方の協力を頂き、自宅へ帰ったり、法事や墓参りに行かれたり、本人の希望も取り入れ、外出を支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方からの当座の現金を預かり、散髪代など必要時支払いをしています。ほとんどの利用者の方は、地震でお金の管理が出来ないので、職員が金銭出納帳に記入し、来所の際、ご家族に確認をお願いしています。本人の安心や満足に向けて少額でも所持金を家族了解の上、手元にお持ちの方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたい方、取次や伝言を頼まれると、タイムリーに応じています。本人希望で居室で電話機の子機を使用して通話が出来るのでプライバシーも守られています。手紙もハガキ、封筒、便箋、貴状を準備し、その都度対応し、ご希望を叶えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングはゆったりとした広さがあり、ソファなど家具や置物を配置し、我が家同様の雰囲気がある。日中の採光、夜間には適度な照明で転倒防止をし、室温、湿度にも配慮して快適な空間作りをしています。キッチンから料理の匂いがし、掃除機の音、洗濯機の回る音、小鳥のさえずり、テレビの音などがして、壁には写真や季節の彩りを工夫しています。手作りのカレンダーで日にちを認識して頂けるようにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、テーブルや椅子、ソファを配置し、自由に思い思いの場所でくつろげるようになっていきます。お茶の時間やレクリエーションが好きな場所で楽しめ、食事の時間には、自分の席が用意してあるので落ち着いて食事ができます。西ユニットへの行き来も自由にされており、見守っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に表札を掲げ、自分の部屋が確認できるよう、目印の写真、飾りをつけ、明るい雰囲気になっています。部屋には、個々の馴染みの家具や思い出の品を置いたり、手作りのカレンダー、壁掛けをかけています。ベッドの配置など個々に合わせているので居室でゆっくりと休めるようになっており、プライバシーの確保もできています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力歩行、自力で車椅子を操作できる利用者にはホーム内の移動が安全に出来るよう、ゆったりしたスペースがあり、職員も見守りやすく、見通しが利くような間取りになっています。居室では、ベッドの位置や家具の配置、身体状況に合わせて、手すりの位置など、移動、移乗もしやすく、自立した生活が送れるよう工夫しています。		